

2019年から始まる3年間の「ゴールデン・スポーツイヤーズ」。その幕開けを目前に控え、国および各地域の「スポーツ振興」や「スポーツ振興を通じた地域の活性化」に対する視線は熱を帯びてきている。この好機を関西はどう生かすのか——。オール関西で進むべき方向性を示唆し、関係者の議論を喚起することをねらい、本年7月、関経連は「関西スポーツ振興ビジョン」を公表した。

“スポーツで輝く関西”を実現するための試みが、スポーツ関係団体・産・学・官の枠を超え、始まろうとしている。



「スポーツの力」を地域の活性化に—— 関西スポーツ振興ビジョンに込める思い

スポーツは人々に大きな感動や楽しみをもたらし、身心の健康維持・増進に役立つ。さらに近年は、健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）を伸ばし、労働力の確保や社会保障費の抑制に間接的に寄与する、スポーツによって生まれる人の交流や地域経済の活性化が「地域や社会の発展・振興」へとつながる、といったスポーツの社会的な効果にも関心が高まっている。

政府もスポーツに注目しており、2016年に閣議決定された「日本再興戦略」では、スポーツ産業を、日本をけん引する新たな成長産業と位置づけ、「未来投資戦略2018」では、未来開拓に向けた具体的施策を盛り込んでいる。スポーツがもたらすさまざまな経済・社会効果に各方面から大いなる期待が寄せられている。

くしくも、日本では2019年のラグビーワールドカップ、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、ワールドマスターズゲームズ(WMG)2021関西と、3年連続してスポーツの大規模な国際大会が開催される「ゴールデン・スポーツイヤーズ」を迎える。なかでも2021

年に関西広域で開催される、アジア初開催となる世界最大の生涯スポーツの国際競技大会「WMG2021 関西」には、国内外のおよそ5万人が参加すると想定されている。スポーツ振興がトレンドとなっている今、われわれは、この絶好の機会を生かしてスポーツがもたらすさまざまな効果をうまく取り込み、関西をさらに活力あふれる地域へと発展させなければならない。“そのために何に取り組むべきなのか——” 検討を重ねた当会のスポーツ振興委員会は、関西におけるスポーツ振興の方向性と具体的な取り組み、検討すべき事項を提案した「関西スポーツ振興ビジョン—スポーツで輝く関西—（以下、振興ビジョン）」を取りまとめ、2018年7月に公表した。今後、この振興ビジョンを基にさまざまな関係者と議論や連携を行い、関西がめざす姿の実現および取り組み策の具体化を進める。

スポーツを通じて関西が「めざす姿」

振興ビジョンでは関西がめざす姿として「スポーツで輝く関西」を掲げた。そしてその実現を通じてめざす、関西の未来を大きく3つ描いた。

①あらゆる人々が集い、スポーツを楽しむ関西

スポーツを楽しむことができる環境（ハード面・ソフ

ト面）が充実しており、参加型スポーツ大会の開催等により、世代やハンディキャップを超えて、あらゆる人々がスポーツを楽しみ、アクティブライフを実現している。そして、関西が、国内のみならず海外からも多数の人が訪れる、「する」「みる」スポーツを楽しむことができる、アジアで最も魅力的な地域の一つとなる。

②スポーツと共に、チャレンジし続ける関西

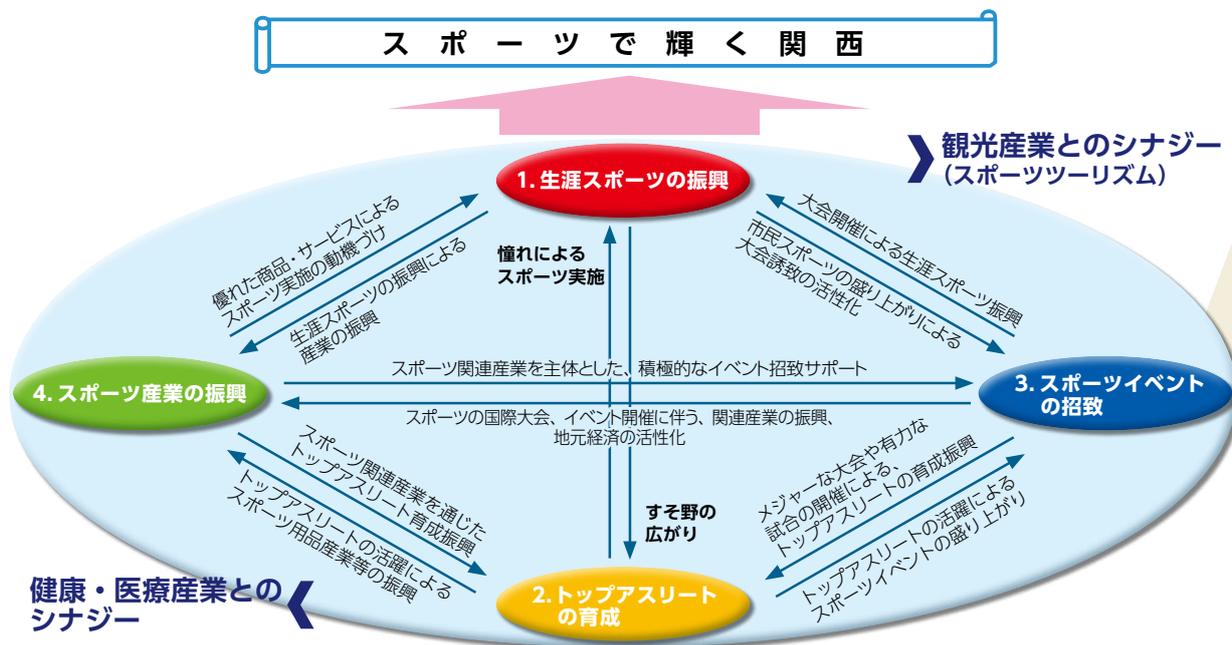
アスリートの「挑戦」を支え、優れたアスリートを輩出するだけでなく、彼らが活躍し続けられる地域となる。スポーツに関するあらゆる分野で新しい試みが生まれるエコシステムが形成されている。

③スポーツが地域・経済を活性化させる関西

スポーツ実施者の増加により人々の健康維持・増進がはかられるのに加え、スポーツを起点にさまざまな産業が振興されることで、地域経済の活性化および人々の交流・対流が促され、関西各地が発展する。スポーツが人々の生活に根づき、スポーツを盛り上げる熱いマインドで活気づいている。

この「めざす姿」の実現に向け、振興ビジョンでは、関西が取り組むべき4本の柱とそれぞれの柱に基づく具体的な活動を提案している。WMG2021関西のレガシーも活用しながら、これらを一体的に進め、2025年ごろに「めざす姿」を現実のものとすることを目標に取り組んでいく。

図1 関西がめざす姿とそれを達成するための4本の柱



4本の柱と個別の取り組み方針

○ 4本の柱とは

4本の大きな柱として取り上げたのは、**1.生涯スポーツの振興**：だれもがライフスタイルに応じスポーツを楽しめる環境整備や機会の提供、**2.トップアスリートの育成**：多数のトップアスリートを輩出するための環境整備と支える仕組みの構築、**3.スポーツイベントの招致**：国際競技大会や大規模スポーツイベントを誘致するための体制の構築、**4.スポーツ産業の振興**：スポーツを起点に関連するさまざまな産業におけるビジネスの創出、である(図1)。

それぞれの柱は有機的に関連しながら「めざす姿」を実現していく。今後、4本の柱に基づき実施していく具体的な活動が、それぞれの柱を太く・強くする好循環を生み出すよう、オール関西で取り組みを進めていくことをめざす。

○ 個別の取り組み方針

4本の柱に基づく個別の取り組み方針は図2のとおりである。主な取り組みについて以下に説明する(各項

目の番号は図2中の太字の番号と同じ)。各取り組みについては今後具体化を進めていく。

1. 生涯スポーツの振興

(2) 企業所属アスリート派遣の仕組みの構築

企業に所属するアスリート等の登録制度を設け、学校や地域のクラブなどに指導者として派遣する仕組みの構築などについて検討していく。

(4) 企業の取り組みを促す表彰制度等の創設

スポーツを通じて健康経営や働き方改革を試みる企業、優れたアスリート育成や障がい者スポーツの振興に積極的に取り組む企業などに対し、取り組みを奨励する関西独自の表彰制度を創設し、当該制度をさらなるスポーツ振興につなげる。

2. トップアスリートの育成

(2) 関西におけるトップアスリート育成の支援

関西が輩出したアスリートが世界で活躍すれば、地域の人々の誇りとなり、小さな子どもたちには大きな夢を与えることになる。また、地域活性化の大いなる起爆剤ともなる。東京のように、すべての競技を支援することは関西では難しいが、関西を盛り上げ、スポーツのすそ

図2 4本の柱に関する個別の取り組み方針

1. 生涯スポーツの振興

- (1) 会員企業に対するスポーツ実施等の実態調査の実施
- (2) **企業所属アスリート派遣の仕組みの構築**
- (3) 企業・経済界によるイベントの実施
- (4) **企業の取り組みを促す表彰制度等の創設**
- (5) スポーツを誰もが気軽に楽しむための施設等の環境整備
- (6) 企業の施設利用拡大や自治体の施設整備の促進に関する国等への働きかけ
- (7) 生涯スポーツ関連データ整備等についての国への働きかけ



2. トップアスリートの育成

- (1) 関西におけるトップアスリート育成環境の調査
- (2) 関西におけるトップアスリート育成の支援
- (3) ナショナルトレーニングセンター誘致に向けた国への要望の実施



3. スポーツイベントの招致

- (1) 関西におけるスポーツイベント実施環境の調査
- (2) **ポスト・ゴールデン・スポーツイヤーズを見据えたスポーツイベント招致体制の構築**
- (3) eスポーツ大会の招致



4. スポーツ産業の振興

- (1) **ゴールデン・スポーツイヤーズを契機としたスポーツツーリズムの振興**
- (2) 関西におけるスポーツ産業振興に関する基礎調査
- (3) 経済団体間の連携および産学官の連携



野拡大への貢献が期待できる競技を選定し、未来のトップアスリートに成長する可能性を持つ、将来有望な若年層アスリートに対する関西独自の支援のあり方を検討し、具体化する。

(3) ナショナルトレーニングセンター誘致に向けた国への要望の実施

関西でのアスリート育成支援の充実に資する、関西の強みや優位性（例えば健康・医療産業や、ものづくり産業とのシナジー効果が期待できるような分野等）を生かしたナショナルトレーニングセンターおよび競技別強化拠点施設の誘致や整備を行っていく。

3. スポーツイベントの招致

(2) ポスト・ゴールデン・スポーツイヤーズを見据えたスポーツイベント招致体制の構築

スポーツで関西を継続的に盛り上げるためには、トップアスリートを身近に感じることができる国際競技大会の招致や、障がい者・健常者が共に気軽に参加できるスポーツ大会の開催などが不可欠である。スポーツイベントを計画的・継続的に関西に招致し、開催するための環境整備や体制づくりを速やかに進める必要がある。

国際競技大会や大規模なスポーツイベントの招致・開催に際しては、関西全体のアセットを生かして対応するため、オール関西で方向性を決定できる場や招致活動のノウハウ等を有する専門的な組織が必要である。関西にはすでに全国に類を見ない広域スポーツコミッションや、広域DMOである関西観光本部が存在している。こういった既存の組織の機能も活用しながら、関西としての体制構築をはかっていく。

4. スポーツ産業の振興

スポーツ産業の振興にとって最も重要なのは、これまであげたような取り組みにより「する・みる・ささえる」スポーツすべてのすそ野が広がることである。

(3) 経済団体間の連携および産学官の連携

スポーツ振興を契機とした産業振興については、各経済団体の取り組みなどと連携しながら、スポーツと他分野を融合させた研究開発や新しい産業の創出等、産学官による連携を進めていく。

オール関西での取り組み推進体制の構築

ここまで、振興ビジョンに掲げる「めざす姿」やその実現に向けた4本の柱と個別の取り組みについて紹介してきたが、スポーツ振興の取り組みをオール関西

で進めていくためには、組織・行政単位の枠を超え、関西の経済団体・自治体・スポーツ関係団体・大学などが一堂に会し、議論・検討・推進を行う場が必要である。振興ビジョンでは、このようなオール関西による会議の場「関西スポーツ振興推進協議会(仮称)」を設けることも提案している。2018年8月1日に開催した関西広域連合との意見交換の場で井戸敏三 関西広域連合長にも賛同いただいております。当会としては「関西スポーツ振興推進協議会(仮称)」を年内にも発足させるべく、関係者との調整を進めている。



関西広域連合との意見交換にて振興ビジョンを説明する佐藤廣士 関西経連副会長(スポーツ振興委員長)

また、4本の柱に基づく個別の取り組みについては、具体的な活動を推進する体制が必要であると考えている。まずはそれぞれの柱の取り組みを行うにあたり最適な関係者を集めた個別の検討体制を構築し、4本の柱の一体的な推進をめざす。

ゴールデン・スポーツイヤーズの成功と 関西でのスポーツ振興の推進に向けて

ゴールデン・スポーツイヤーズに開催される大会のうち、関西も舞台となるラグビーワールドカップおよびWMG2021関西をいかに盛り上げ、成功に導くのが関西にとって非常に重要である。これらの大会のレガシーが、今後の関西におけるスポーツ振興の取り組みにつながるよう、当会としても、スポーツの「する・みる・ささえる」活動を積極的に支援・推進していく。まずはWMG2021関西に多くの人々が参加することができるよう、「する」スポーツに関する環境整備等に取り組む。

振興ビジョンの公表を契機に、「スポーツを通じ関西を元気で活力ある地域に」という熱い思いが関西の隅々にまで行き渡り、だれもがスポーツで輝く、活気ある関西になるよう、オール関西で推進していく。

(地域連携部 芝真理子)